

KFシールテクト NK工法 施工要領書

2024年4月作成

KFケミカル株式会社

1	KFシールテクト NK工法 仕様	3項
2	KFシールテクト NK工法 仕様断面図	3項
3	施工フロー図	4項
4	施工条件	4項
5	要求下地	4項
6	施工手順	
6-1	下地処理、清掃、養生	5項
6-2	KFシールテクトアンダーコートNK塗布	6項
6-3	KFシールテクトNKトップ塗布	7項

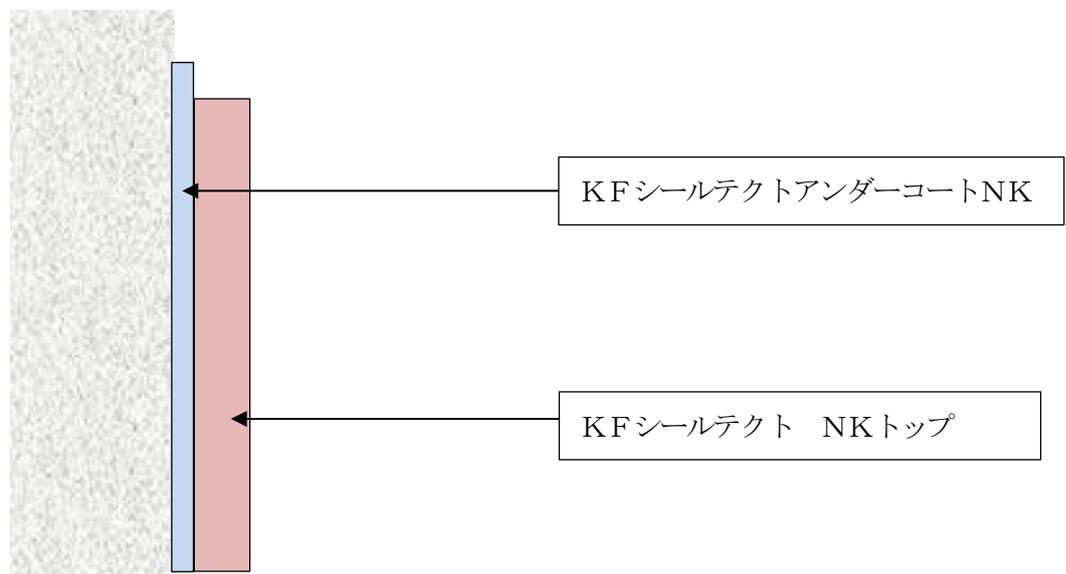
1 KFシールテクトNK工法 仕様

■ KFシールテクトNK工法

工程	種別	使用材料	標準塗布量/m ²	
1	3成分型水性エポキシ塗料	KFシールテクトアンダーコートNK	0.35kg	
2	1液湿気硬化型溶液塗料	KFシールテクトNKトップ	0.30 kg	0.20kg
3			0.30 kg	0.20kg
4			—	0.20kg

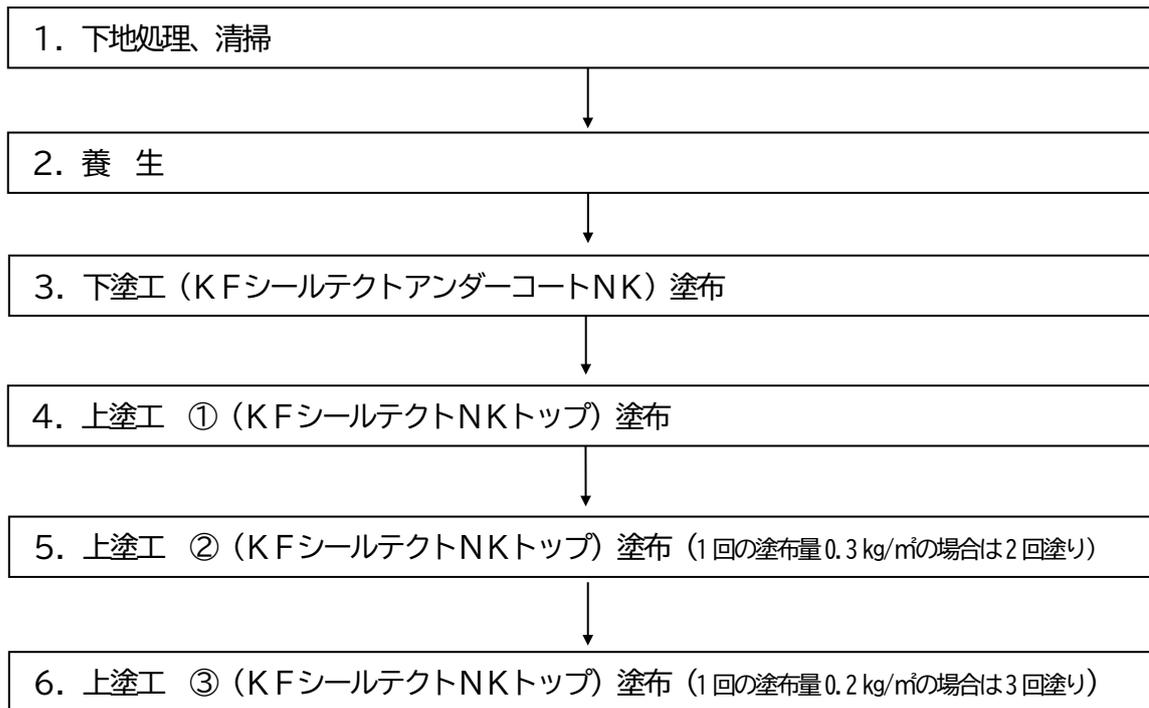
備考：KFシールテクト NKトップは塗り重ね回数を2～3回とし、総塗布量を0.6kg/m²とする。
施工環境により0.3kg/m²で材料ダレが発生する場合には0.2kg/m²×3回塗りとする。
また、横梁下面、床版下面、天井等の部位は0.2kg/m²×3回塗り仕上げが望ましい。

2 KFシールテクトNK工法 施工断面図



施工断面図

3 施工フロー図



4 施工条件

(1) 施工条件

以下の条件をすべて満たした状態で施工を行う。

- ・降雨、降雪、強風がないこと
- ・気温5℃以上、湿度85%以下であること
- ・下地含水率10%以下であること
- ・施工面が十分乾燥し、結露・凍結がないこと
- ・施工面は十分に清掃され付着阻害要因となる異物等がないこと

5 要求下地

- (1) 施工面の補修歴を確認し、施工に支障のない下地表面であること。
- (2) コンクリートの表面は十分に乾燥していることを確認する。
- (3) 施工に支障のない程度に止水処理がされていること。

6 施工手順 6-1

作業名	下地処理・清掃・養生	作業番号	1、2
-----	------------	------	-----

使用材料と使用量	なし	使用工具	①サンダー ②清掃用具 ③墨出し ④養生テープ ⑤皮スキ
----------	----	------	------------------------------------

作業内容	注意事項
<p>【下地処理】</p> <p>①下地と防水材の接着を阻害するようなレイタンス、油脂、錆、よごれ等は除去すること。また、著しい突起物、豆板などの欠陥部は補修すること。</p> <p>②コンクリートの表面含水率は、高周波式コンクリート・モルタル水分計を用いて計測し、10%以下であることを確認すること。</p> <p>③ひび割れ部からの水分は十分に止水を行うこと。</p> <p>【清掃】</p> <p>①下地表面にあるゴミやホコリ等を箒等で除去する。</p> <p>②地面に落ちたゴミやホコリ等は塵取り、乾湿両用掃除機等で清掃する。</p> <p>【養生】</p> <p>①施工範囲確定後、墨出しを行う。</p> <p>②墨に合わせマスカーや養生テープを貼りつける。</p> <p>③遮音壁、支柱、ケーブル等について同様に養生を行う。</p>	<p>・下地処理を怠ると施工不良の原因になるため、適切な下地処理がなされていることを確実に確認すること。</p> <p>・使用材料が付着すると容易に剥がすことが出来ないため、付着してはいけない機材等も養生を行う。</p>

施工手順 6-2

作業名	KFシールテクトアンダーコートNK塗布	作業番号	3
-----	---------------------	------	---

使用材料と使用量	KFシールテクトアンダーコートNK (0.35 kg/m ²)	使用工具	① 攪拌機 ② 刷毛 ② 中毛ローラー
----------	--	------	------------------------

作業内容		注意事項																												
<p>①ポリペール缶内の材料を取り出す。</p> <p>②ポリペール缶内に硬化剤2kgを開封後容器に入れて、次に粉体5.4kgを開封し容器に入れ1分間攪拌する。最後に主剤2kgを開封後容器に入れて更に1分間攪拌する。</p> <p>③刷毛、中毛ローラー等を用いて、0.35 kg/m²均一に塗布する。</p> <p>《希釈剤の使用について》 ・水希釈する場合は清水を用い、5%を上限とする。</p> <p>《塗装間隔及び使用可能時間の目安について》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">温度</th> <th>5~10℃ 冬期</th> <th>10~25℃ 春秋期</th> <th>25~35℃ 夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">項目</td> <td>最短</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用可能時間^{※2}</td> <td>6時間</td> <td>4時間</td> <td>2時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 ：下地への塗布後、上塗工の施工が可能な時間。</p> <p>※2 使用可能時間 ：主剤、硬化剤、粉体混合攪拌後の下地へ塗布する事の出来る時間。</p> <p>《膜厚管理》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>塗布量 (kg/m²)</th> <th>ウェット膜厚 (μm)</th> <th>乾燥膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.20</td> <td>130</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>0.35</td> <td>225</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table>		温度		5~10℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	25~35℃ 夏期	項目	最短	30分~	30分~	30分~	最長	~7日間	~7日間	~7日間	使用可能時間 ^{※2}		6時間	4時間	2時間	塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)	0.20	130	90	0.35	225	160	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 : 9.4 kg/set ・容器 : ポリペール缶 (内訳) 主剤 : 2 kg 硬化剤 : 2 kg 粉体 : 5.4 kg ・施工条件に注意する。 ・材料の攪拌は、高速回転(1000 rpm以上)でスクリュー径150mm以上の電動攪拌機を使用する。 (プロペラタイプは不可) ・容器入隅部は混ぜり難いので入念に攪拌する。 ・塗りムラ、溜まりを抑えるため、タテ、ヨコ方向に交差するよう塗布する。 ・使用する塗布用具は施工部位、下地の状況に応じて適宜使い分ける。 ・塗布後、指触乾燥状態になったら、上塗の施工が可能。 ・使用可能時間が過ぎた材料の使用は厳禁。 ・WET膜厚測定はコンクリートの吸い込みで測定困難な場合があるためm²当たりの使用量で塗布量を管理するのが良い。
温度		5~10℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	25~35℃ 夏期																										
項目	最短	30分~	30分~	30分~																										
	最長	~7日間	~7日間	~7日間																										
使用可能時間 ^{※2}		6時間	4時間	2時間																										
塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)																												
0.20	130	90																												
0.35	225	160																												

6 施工手順 6-3

作業名	KFシールテクトNKトップ [®] 塗布 (2~3回塗り)	作業番号	4、5、6
-----	---	------	-------

使用材料と使用量	KFシールテクトNKトップ (0.3kg/m ² ×2回)	使用工具	①攪拌機 ②刷毛 ③ローラー
	OR		
	KFシールテクトNKトップ (0.2kg/m ² ×3回)		

作業内容		注意事項																													
<p>①KFシールテクトNKトップは1液タイプで、硬化剤等の混合は不要。 ただし容器底に塗料成分が沈降している場合があるため、使用前には攪拌機等で30秒程度攪拌後使用する。</p> <p>②KFシールテクトアンダーコートNKが指触乾燥していることを確認する。</p> <p>③刷毛、またはローラーで、0.3kg/m²を均一に塗布する。ただし、天井面や床版下面など塗料が塗付けにくい部位は、0.2kg/m²の3層塗りで仕上げる。</p> <p>④1層目のNKトップを塗布後、下表《塗装間隔の目安》を参考に2層目のNKトップを均一に塗布する。 ※1層目の塗膜がウェット状態であっても、塗り重ねても問題ない</p> <p>《希釈剤の使用について》 ・使用不可とする。</p> <p>《垂れ止め剤の使用について》 ・使用不可とする。</p> <p>《硬化促進剤の使用について》 ・原則、使用不可とする。 ・やむを得ず使用する場合は、専用硬化促進剤を使用する。</p> <p>《塗装間隔の目安について》</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">温度</th> </tr> <tr> <th>5~10℃ 冬期</th> <th>10~25℃ 春秋期</th> <th>25~35℃ 夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">標準 塗装間隔^{※1}</td> <td>最短</td> <td>1時間~</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~4日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 ：同一材料による積層可能時間 (2層目の塗装間隔)</p> <p>《使用可能時間について》 ・KFシールテクトNKトップは空気中の水分と反応するため、開封後数時間放置する場合には、マスカー、ビニール袋等で塗料を空気から遮断する。</p> <p>《膜厚管理》</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>塗布量 (kg/m²)</th> <th>ウェット膜厚 (μm)</th> <th>乾燥膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.20</td> <td>200</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>0.30</td> <td>300</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>0.60</td> <td>600</td> <td>380</td> </tr> </tbody> </table>		項目		温度			5~10℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	25~35℃ 夏期	標準 塗装間隔 ^{※1}	最短	1時間~	30分~	30分~	最長	~7日間	~7日間	~4日間	塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)	0.20	200	130	0.30	300	190	0.60	600	380	<ul style="list-style-type: none"> ・容量：15kg ・容器：18ℓ石油缶 ・施工条件に注意する。 ・塗装用具はローラーが望ましい。 ・KFシールテクトNKトップはウェットオンウェット施工が可能な材料である。 ・塗装上のポイントとして、1層目が乾いていない状態で2層目を塗装する場合は、1層目の塗膜を起こさないように、2層目は塗料を置いていく感覚で塗装する。 ・硬化の始まった材料の使用は厳禁。 ・WET膜厚測定は塗装後、直ぐにウェット膜厚計で測定する。
項目				温度																											
		5~10℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	25~35℃ 夏期																											
標準 塗装間隔 ^{※1}	最短	1時間~	30分~	30分~																											
	最長	~7日間	~7日間	~4日間																											
塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)																													
0.20	200	130																													
0.30	300	190																													
0.60	600	380																													